

# 福島原発事故で声明発表

東日本を襲った東北地方太平洋沖地震にともなって発生した福島原発事故について、核戦争に反対する医師の会は3月16日、情報公開や被曝拡大防止などを求める代表世話人声明を発表し、総理、官房長官、経産大臣、東電、マスコミ各社に送付した。声明は次の通り。

3月11日午後M9.0という東北太平洋沖大地震は、大津波によって多くの犠牲者を生み出すとともに、東京電力福島原子力発電所原子炉の炉心溶融、爆発を次々と引き起こし、放射能汚染の濃度と範囲を広げました。ことに1号原発3号機はプルサーマル発電でプルトニウムを使用して、拡散した場合の危険

は計り知れません。未曾有の大震災で住まいや家族を失った上に被曝の不安にさらされている被災者の苦しみは察するに余りありません。巨大地震の下では、世界で唯一、地震多発地帯の上で原発を建設してきた国策が誤りであったことが実証され、我が国の原子力安全

核兵器廃絶をめざす医師・医学者は、今回の未曾有の大震災の被災者に対して心よりお見舞い申し上げ、出来る限りの支援活動に取り組むとともに、原発事故について政府と東京電力に以下のことを当面対策として強く求めるものです。

## 第22回つどいの会場・日程決まる

11月5〜6日、さいたま市民会館うらわ

第22回核戦争に反対し核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい(同実行委員会・反核医師の会主催)

▼開催日 2011年11月5日(土)〜6日(日)  
▼会場 埼玉県・さいたま市民会館うらわ(〒330-0062埼玉県さいたま市浦和区仲町2-10-22)

「よき隣人」を宣言してきたが、沖繩元総領事から前米国務省日本部長のケビン・メア氏は総領事時代から沖繩にとって物議をかもし「迷惑な隣人」という印象だった。▼メア氏は米国国務省日本部長に昇格、本國に戻っていたが、大学生に向けた講義で「沖繩はだましとゆすりの名人」「普天間基地は世界一危険な基地」というが、福岡空港も大阪空港も同じく危険「ゴーヤ」は特産品というが(中略)生産量も劣っているのに我慢したりするなまけ者」などと筋の通らない、事実と違った発言で沖繩の人々を怒らせている。▼このような暴言を吐く人物が国務省の要職にあること自体到底考えられないが、恐らく基地問題をはじめ日本事情に関する情報の大部分は日本部長であるメア氏を通してアメリカ側に伝わっていた可能性がある。▼沖繩県議会はただちに抗議と謝罪要請の決議を全会一致で採択。折りしもキャンベル国務次官補が普天間移設の日米合意に関する協議のため訪日しており、日本側さえ要求しなかったメア氏の更迭にまで発展した。▼そして突然の大震災の発生。今度はメア氏が米国務省の東北関東大震災対策の調整役についてのことにと大きな驚きを禁じえない。メア発言で普天間問題はますます困難になったとの観測がなされる中、今回の人事はどのような意味をもつのか?注目する必要がある。(洋)

## 福島原発事故についての声明

2011年3月16日

### 核戦争に反対する医師の会(PANW)

代表世話人 児島 徹

山上 紘一  
中川 武夫

核戦争に反対する医師の会(反核医師の会、PANW)の第7回全国世話人会が4月24日午前10時半から、東京・御茶ノ水の平和と労働センターで開催される。役員改選、申し合わせ事項の改定などが提案されるほか、午後からは市民公開企画として、原爆や核実験被害の実態説明に取り組んできた星正治・広島大学教授

の単独開催となる。役員改選では、世話人から常任世話人を、常任世話人から代表世話人と事務局長を選出する。いずれも任期は2年。市民公開企画は、星教授

が「広島原爆「黒い雨」にともなう放射性降下物に関する研究の経過と現状」をテーマに講演する。

# 全国世話人会、開催間近

## 市民公開企画

### 「黒い雨」追い続ける 星教授が講演

今日24日・東京

第47号  
2011年4月2日

Physicians Against Nuclear War (PANW)  
核戦争に反対する医師の会事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5  
新宿農協会館 全国保険医団体連合会内  
電話 03(3375)5121 FAX 03(3375)1885  
e-mail: panw@doc-net.or.jp  
http://no-nukes.doc-net.or.jp/

## 第7回全国世話人会 市民公開企画

### テーマ

広島原爆「黒い雨」にともなう放射性降下物に関する研究の経過と現状

### 講師

広島大学原爆放射線医学研究所教授  
星 正治 (ほし まさはる) 氏

■日時: 2011年4月24日(日) 14:30~16:30

■場所: 東京・お茶の水  
平和と労働センター2階ホール  
〒113-8465 東京都文京区湯島2-4-4

■参加費: 無料

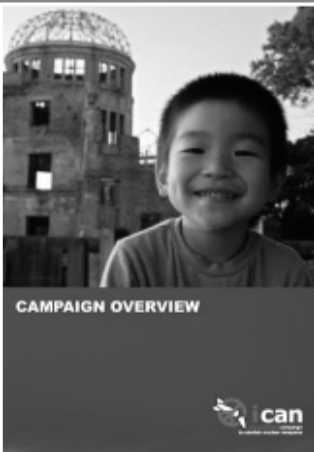


星 正治(ほし まさはる)氏  
プロフィール

1948年生まれ。1970年 大阪大学理学部卒業、1972年同大学院理学研究科修士課程修了、1977年広島大学大学院理学研究科博士課程単位取得後退学。大分工業大学講師、広島大学原爆放射線医学研究所助手、同助教授を経て、1994年から現職。これまでに原子力委員会、放射線被曝者医療国際協力推進協議会、物理学的線量評価ネットワーク会議、科学技術学術審議会(研究計画・評価分科会)、国連科学委員会国内対応委員会、日本学術振興会科学研究費委員会、JICAセミパラチンスク地域医療改善計画国内支援委員会などで委員等を努めた。2003年第12回国際放射線影響学会賞、2004年カザフスタン共和国の人々の健康維持管理への貢献に関する特別賞、ほか

## ICAN日本語版パンフ

完成間近!



反核医師の会ではICANパンフの日本語版を作成中です。完成後は奮って活用ください。(写真は英語版、関連記事2面)

## ガンマ線

在日米軍は「よき隣人」を宣言してきたが、沖繩元総領事から前米国務省日本部長のケビン・メア氏は総領事時代から沖繩にとって物議をかもし「迷惑な隣人」という印象だった。▼メア氏は米国国務省日本部長に昇格、本國に戻っていたが、大学生に向けた講義で「沖繩はだましとゆすりの名人」「普天間基地は世界一危険な基地」というが、福岡空港も大阪空港も同じく危険「ゴーヤ」は特産品というが(中略)生産量も劣っているのに我慢したりするなまけ者」などと筋の通らない、事実と違った発言で沖繩の人々を怒らせている。▼このような暴言を吐く人物が国務省の要職にあること自体到底考えられないが、恐らく基地問題をはじめ日本事情に関する情報の大部分は日本部長であるメア氏を通してアメリカ側に伝わっていた可能性がある。▼沖繩県議会はただちに抗議と謝罪要請の決議を全会一致で採択。折りしもキャンベル国務次官補が普天間移設の日米合意に関する協議のため訪日しており、日本側さえ要求しなかったメア氏の更迭にまで発展した。▼そして突然の大震災の発生。今度はメア氏が米国務省の東北関東大震災対策の調整役についてのことにと大きな驚きを禁じえない。メア発言で普天間問題はますます困難になったとの観測がなされる中、今回の人事はどのような意味をもつのか?注目する必要がある。(洋)

# ICANと当会の方針

反核医師の会事務局長 松井 和夫



と、ICANへの当会の取り組み方針について述べる。そこで今、世界中で最も注目され期待されているのがNWCであり、それを推進するICANである。

ICAN (International Campaign to Abolish Nuclear weapons) は「核兵器禁止条約(以下NWC)」の実現を求める国際キャンペーンであり、当面の目標はその即時交渉開始である。では、何故NWCなのか、何故組織ではなくキャンペーンなのか。今までの核廃絶運動との違い

世紀もの先延ばしを図っているに過ぎない。核兵器の軍事的、政治的な意味が薄れた現在、その延命を画策するのは核兵器で莫大な利益を得ている勢力であり、核廃絶の最大の障害となっている。しかし、市民社会は今や結集すればそれを打破する力を持っている。

私たちが核兵器廃絶のために、半世紀以上にわたり世界中で署名を集め、NPT会議に圧力をかけ、CTBTの批准やNPT加盟などを求めてきた。しかし、数は減ったものの、核廃絶に至る具体的な道程は未だ見えない。運動上何が不足していたのか? 単に努力が足りないのか? 署名を集めれば展望が開けるのか? この閉塞状況を脱するには、今までは違う発想やアプローチが必要である

ICANの普及、ICANの資料の翻訳・普及、独自に役立つ情報や資料を会員及び一般市民へ提供、日本政府にNWCを支持するよう働きかけることなどが重要であると考えている。すでに、当会のウェブサイトのリニューアルやICAN普及のための日本語版パンフ発行などが進行中である。第22回反核医師のつどい(11月・埼玉)でもメイン・テーマとして取り組まれる。

ICANの詳細については、近日中に発行予定の2010年活動報告集に、前回「つどい」でのティルマ・ラフ氏の講演録を掲載します。是非お読みください。

また6月5日には核保有国(アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国)の首脳あてに核廃絶に向けた具体的なロードマップの作成を求める要請書や『医師たちの原爆症―被爆者医療に闘って』リーフレット等を送付し、マスコミ各社にもアピールした。

今年の6月5日は日曜日。当会では1年前から「6・5 Nuclear Abolition Day」を総会開催日に設定し、総会記念事業を練ってきた。今年、①会場近くの香林坊大和前で「白衣の街頭キャンペーン」②岩佐幹三・日本被団協事務局次長の「被爆証言を聴く会」③長編アニメ「はだしのゲン」上映会を計画している。

## 全国世話人会開催にあたって

核戦争に反対する医師の会代表世話人一同

お元気にご活躍のことと存じます。激動の国内外情勢下で、止めることのできない医療・福祉の活動に奮闘されている皆様に敬意を表したいと思います。核兵器廃絶をめざす運動を、人間としての良心と知識人としての社会的責務として進めておられる医師・歯科医師・医学者の皆様に尊敬の念をもっています。2011年11月に開かれる「第22回核戦争に反

## 6・5はNuclear Abolition Day 核兵器廃絶記念デー世界同時アクション

核戦争を防止する石川医師の会事務局 神田 順一



総会会場前で白衣の街頭キャンペーンを行った石川反核医師の会メンバー (2010年5月30日、金沢市)

「6・5 Nuclear Abolition Day」を総会開催日に設定し、総会記念事業を練ってきた。今年、①会場近くの香林坊大和前で「白衣の街頭キャンペーン」②岩佐幹三・日本被団協事務局次長の「被爆証言を聴く会」③長編アニメ「はだしのゲン」上映会を計画している。石川反核医師の会では小・中学生から被爆の実相を伝えることが大事と、漫画「はだしのゲン」(全十巻)を県内の小中学校図書館に寄贈する計画を立てており、6月5日を募金活動のスタート集会に位置づけている。県内の非核・平和団体や2010年NPT再検討会議・ニューヨーク行動参加者、マスコミ各社等に呼びかけて「6・5 Nuclear Abolition Day」を広く市民にアピールしていきたい。

# 原爆症認定の現状と「検討会」の動向

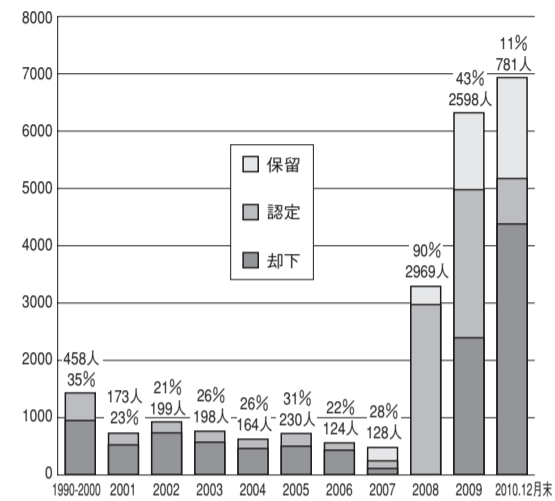
反核医師の会常任世話人 青木 克明



た。申請希望者が殺到し、審査会議を月1回から6回に増やしたが、2年以上待たされるケースもある。多

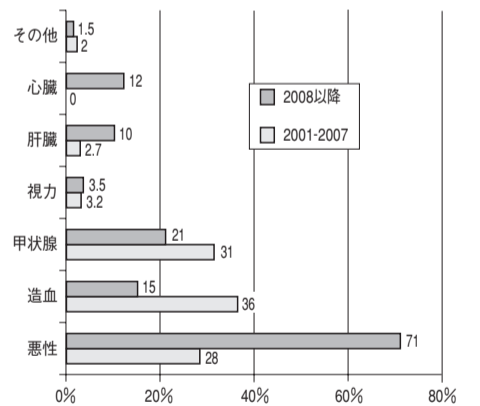
原爆症集団訴訟の全面敗訴を受けて、国は2008年度から審査の方針を改め、積極認定の範囲を爆心3・5 km以内の直爆、10時間以内に爆心2 km以内へ入市、その後の入市でも1週間以上滞在したものに拡大した。これにより対象者は被爆者の約25%から65%に拡大した。対象疾患として心筋梗塞が追加され

図1 原爆症認定審査結果の推移 認定数と認定率



3月末に新制度での審査の全貌が明らかとなるが、12月末での集計では認定6348件(37・7%)却下6848件(40・7%)保留3643件(21・7%)となっている。厚労省は2010年4月6日審査分の判定結果を初めて公表した。「積極認定の範囲」が適応されたのは悪性疾患のみであり、それ以外の疾患で認定された最遠被曝距離は白内障1・2 km、心筋梗塞1・3 km、肝

図2 新旧制度での認定率の比較 悪性、肝臓、心臓の上昇、甲状腺、造血は低下。視機能は微増



臓病1・3 km、甲状腺機能低下症1・8 kmであった。良性疾患には新たな閾値が設定されたことになる。原因確率表にそって審査された2001年度から2007年度までと2008年度以降の審査終了件数を比較してみると悪性疾患は2・7倍、白内障などの視力障害は11倍に増加している。白内障は健康管理手当受給者の17%を占めており、積極認定の対象者は2万人と推測される。健康管理手当から医療特別手当への変更が実現すると信じて多くの方が申請されたわけである。

新旧制度での認定率を比較してみると(図2)悪性疾患では28%から71%に増加しているが、甲状腺機能低下症、造血機能障害では30%以上だったものが21%、15%に低下している。肝臓病は2・7%から10%に増加し、新設された心筋梗塞は12%であったが、視機能障害は3・2%から3・5%への微増という惨憺たる結果である。新たな制度でも却下される被爆者の中からは近畿で8人、広島で12人が処分の取り消しをもとめ

必要がある。参考人として招聘された伊藤直子中央相談所理事は「原爆の健康影響は未解明の部分が多く、厳密な科学的根拠がない」と原爆症と認めない現行制度は矛盾している。全被爆者に年金的性格を持つ手当を一律支給したうえで、病気の人は症状の重さに応じて加算する制度を新設すべきである」と適確な提案をした。肝炎対策予算捻出のためか、被爆者援護にかかわる来年度予算要求は1478億円で今年度比5%、71億円の減少となっている。被爆者援護予算を削減することなく、被爆者が納得できる原爆症認定制度の早期の改定を実現するため私たちも国に働きかけていくことが必要である。

日本はいま未曾有の巨大災害に直面している。この巨大災害を乗り越えることが緊急かつ重要な問題である。前号以降、新しい防衛大綱はじめ多くの重要問題が起きたがいまはそれらをコメントする時間的余裕も紙幅もない。

## 時事モニター

### 第4回 未曾有の大災害、国民の生命と安全なくらしこそ第一

3月11日午後三陸沖でマグニチュード9・0の巨大地震が発生したのである。その惨状は連日報道メディアで伝えられている。とりわけ重大問題は東京電力福島第1発電所で原子炉が重大事態に陥ったことである。地震国日本における原子力発電所の設置、とり

わけ沿岸部に設置するリスクは指摘されてきた。それが最も深刻な内容で現実のものとなりつつある。いま、政府は地震、津波、原発事故の被害から国民の生命・安全なくらしを守るために全力を注

ぐことが求められる。そのためには国民の判断力を信頼して情報公開を積極的に起こす必要がある。現実には起きている問題から国民の目と耳をふさぐことは、かえって不安を増大させる。自衛隊は11日夜には中

であり、「モニタリング」や「除染」はできても、原子力発電システム内の核事故を「制圧」するものではない。核事故を鎮静化し、放射性物質の外部環境への発散を防止するためには電力会社と行政機関であ

る原子力安全・保安院任せでは不十分だ。原子炉など原子力技術の専門家や空中からの放射能測定、原発への給水作業などをやっている。しかし、これらの部隊は放射能汚染地域での「軍事行動」を可能にするための部隊

る原子力安全・保安院任せでは不十分だ。原子炉など原子力技術の専門家や空中からの放射能測定、原発への給水作業などをやっている。しかし、これらの部隊は放射能汚染地域での「軍事行動」を可能にするための部隊

る原子力安全・保安院任せでは不十分だ。原子炉など原子力技術の専門家や空中からの放射能測定、原発への給水作業などをやっている。しかし、これらの部隊は放射能汚染地域での「軍事行動」を可能にするための部隊

る原子力安全・保安院任せでは不十分だ。原子炉など原子力技術の専門家や空中からの放射能測定、原発への給水作業などをやっている。しかし、これらの部隊は放射能汚染地域での「軍事行動」を可能にするための部隊

る原子力安全・保安院任せでは不十分だ。原子炉など原子力技術の専門家や空中からの放射能測定、原発への給水作業などをやっている。しかし、これらの部隊は放射能汚染地域での「軍事行動」を可能にするための部隊



## 隠された被曝 矢ヶ崎 克馬 著

著者は琉球大学理学部教授で物性物理学を専門としています。核兵器が行き来する沖縄の環境が問題提起となり、長年大学の授業で「核の科学」という平和をテーマとした授業を続けてきたこと、原爆症認定集団訴訟に携わり原爆被曝問題に目を向けたときに、「あつと驚く」非科学的な世界が展開していることに怒りと疑問が生じたこと、そのような背景と動機によって本書が書かれたようです。第1部では、被曝隠しの実態と原爆症認定基準の欠陥を指摘し、まよかしの認定基準がつけられた背景として、大きな政治の力が働いていること、「科学」を利用して放射性降下物、内部被曝を無視してゆく巧妙な組織的仕組みがあったことを暴いています。特に、原爆の放射線量評価の基礎となったDS86について、原爆障害調査委員会(ABC)、放射線影響研究所(放影研)、国際放射線防護委員会(ICRP)の3者が米国核戦略の元に被曝自体を過小評価させるために放射性降下物による内部被

曝の隠蔽化した経過を明らかにしています。第2・第3部では、物理学者の立場から放射線学についてレビューし、無視されてきた内部被曝の危険性、その原因が放射性降下物に由来すること、内部被曝の本質である放射性降下物の成り立ちと性質を科学的に論じています。第4部では、放射線被曝の重要な要素に内部被曝を加えることによって体内被曝の累積被曝線量の計算を試みています。その結果は、「埃とも感知できない」マイクログラムレベルの量でも急性症状が発症する被曝量になるものでした。その上で、内部被曝を正當に評価し、正しく反映した被爆者認定基準を提案しています。あとがきで述べているように、「被曝の実相解明が進んでいないのは、科学的に解明できないからではなく、核戦略による反科学的行為によるものだ」という指摘は目から鱗が落ちるようなインパクトがあります。医学者という科学者として、原爆被害にとどまらず、核実験、劣化ウラン弾、原子力発電を含めた世界的な被曝問題にどう向き合っていくべきか、そんな時に確かな指針を示すような一冊です。(北海道勤医協伏古十条クリニク 小泉茂樹)

※北海道反核医師・歯科医師の会会報第43号(2010年9月)より転載

# 各地の反核医師の会から

## 埼玉 肥田氏ら迎えシンポジウム

### 非核の声を次の世代に

核戦争を防止する埼玉県医師・歯科医師の会（埼玉反核医師の会）は、1月22日（土）に第6回定期総会と記念シンポジウムを保険医協会会議室で開催した。

記念シンポジウムは、肥田舜太郎氏（埼玉反核医師の会名誉代表委員）と原明範氏（埼玉県被爆者団体協議会副会長）を話者として「原爆症認定集団訴訟を振り返って〜非核の声を次の世代に〜」と題して行った。



肥田舜太郎氏



原明範氏

とで被爆の実相が語り継がれなくなってしまうことを大変危惧すると述べ、自身の被爆体験を語った。「人を焼く臭い、皮膚が膿んだ臭い、血の臭い、死体の臭

いが広島の中をおおった」66年経った今も人を殺し続けている。2世3世に影響がないかと、一生苦しめるのが原爆だ」と告発し、原爆の実相を語る担い手になってほしいと呼びかけた。

続いて肥田氏は、「米国は、被爆者を治療する術がないことをわかって原爆を落とした。原爆投下後、原爆を落とした責任者が9月8日に来日して、原爆被爆者で死ぬべき人はすべて死に病人は一人もいないと世界に発表した。このファール報告が未だに世界で信じられている」と強調した。ある被爆者が権威ある医師に検査や診断を求めて診察を受けた際「私にはこの病気がわかりません」と言うなら分かるが、「あなたは病人ではない」と言ったという。「医学を持ち出す以前に人間であるべきだ」と

述べて、医師としての根本的立場を示した。シンポジウム後に定期総会を開催し、活動報告、方針、会計監査報告および運営委員の補充を可決した。

## 茨城 原発の連続学習会がスタート

### 正確な科学的知識もって議論を

反核医師の会常任世話人 斉藤 慎量

「茨城医療人の会」は1月23日、茨城県土浦市の市民生涯研修センターで、一



般市民も参加できる原発についての「連続学習会」の第1回学習会を開いた。原発の可否についてはいろいろな議論があるが、それを論じる際に、まずは正確な科学的知識を踏まえる必要がある。また、原発はエネルギー問題の枠にとどまらず、核兵器開発に連動するものであることは容易に想像できるが、その関連をしっかりと把握する必要もあるだろう。いま、国を挙げて欺瞞的な宣伝を繰り返して、隠微い体質をぬぐい



長坂慎一郎氏

きれない原発産業が活発に蠢いている中であって、原発に疑問を持つ人たちが有効な運動を進めるためには「基礎学力」が必要である。特に茨城県は「原発先進県」でもあるから、この問題には積極的に取り組むべきだろう、というのがこの「連続学習会」の趣旨である。

## 核兵器全面禁止へ国際署名スタート

### IPPNW、ICANからも賛同

各国政府に核兵器禁止条約の交渉開始を求める国際署名キャンペーン「核兵器全面禁止のアピール」がこのほど、全国一斉にスタートした。潘基文・国連事務総長をはじめ国内外から169の団体・著名人が賛同し、IPPNW（核戦争防止国際医師会）のマイケル・クライスト執行理事長や、同プログラム責任者で「PANWのついでにinNY」

（2010年5月、米国・ニューヨーク）にも参加したジョン・ロレッツ氏、第21回核戦争に反対し核兵器の廃絶を求める医師・医学者から直接お話を聞いたのは、ほんとうに貴重な体験となりました。戦争のときには、人のいのちがかえりみられなくなつて、人間が人間でなくなつてしまふと感じました。その体験は戦争が終わっても、一人ひとりの一生を大きく変えてしまいます。「核兵器や戦争をなくすことは難しい」と言う声をよく聞きますが、人のいのちと健康をまもることを仕事とする医師は、ぜひに戦争に賛成してはいけなないと思えました。戦争反対、ちゃんとやりたいと思います。今回の学びの体験を大切に、学びつづけて、平和な世の中をつくるため努力していきたいと思えました。

## 学生会部コーナー

### 戦争反対、ちゃんと言おう

#### 広島でフィールドワーク

九州大学医学部4年 学生会部副代表 藤本 佐和

3月2〜3日、広島で2回目となるフィールドワークをしました。学生4人が福岡から参加しました。

1日目、まずお好み焼きを食べながら、広島県被爆協の事務所を訪ね、2人の被爆体験を聞きました。

吉岡幸雄さんは、当時16歳、爆心から1・7キロで被爆。クラスを2班に分け、建物疎開の作業を5日か6日にするか、級長の吉岡さんと副級長がジャンケンで決めました。吉岡さんの班は5日になり助かりました。別の班の仲間は作業中



に亡くなり、「同級生20数人を殺してしまつた」と生涯の重荷に。「軍国少年だった。戦後になって、戦争に命がけで反対した人たちがいたことを知った。戦争の被害と加害の体験から平和憲法ができた。それを

聞きました。被爆二世の大中伸一さんが、平和公園と資料館を案

ないがしろにする動きには、ぜひに反対しないといけない。声を上げ続けなければ、平和な世の中にすることはできない。二度とヒロシマを繰り返させないの思いで運動しつづける」という言葉は、吉岡さんの生き方が表れているように、つよく印象に残りました。

当時5歳、爆心から14キロの沼田町戸山にいた大越和郎さんのお話のなかで、黒い雨、避難してきた人のこと、通っていた小学校で3人が白血病になったこと、「原爆の子の像」をつくる運動に加わったことを聞きました。

放射線は爆心からの距離、被曝の時間、遮蔽物によって影響が異なると聞きました。あつたとき偶然いた場所、逃げたり人を探したりした道、その後、栄養をとれたか、薬があつたかなどが、多くの人びとの生死に影響、線引きを持ち込まれ



る被爆者援護によって、「ヒロシマの被ばく」は続いています。

2日目は、平和公園の外に被爆遺跡をめぐりました。広島市の街の過去から現在につながる全体像を見る手がかりをつかめたように思います。ヒロシマについて、何度学んでも、知らなかったなと気づくことがいっぱい

## 2011年度会費納入のおねがい

- 2011年度を迎えました。本会は、会員の皆様の会費と主旨に賛同いただいている募金によって運営しています。今年第7回全国世話人会（4月・東京）、第22回反核医師医学者のつどい（11月・埼玉）などの企画が予定されています。また、ICAN運動をさらに押し進める行動にもとりくんでいきたいと考えています。2011年度会費納入と募金へのご協力をお願いいたします。
- 個人会員（医師・歯科医師、医学者） 10000円
  - 医・歯学生会員 1000円
  - 賛助会員 1000円

振込先 ◇りそな銀行 新都心営業部 普通 1557502  
「反核医師 医学者の集い」  
◇郵便振替 00170-7-56764  
「反核医師・医学者のつどい」